

みずほマーケット・トピック(2024 年 4 月 19 日)

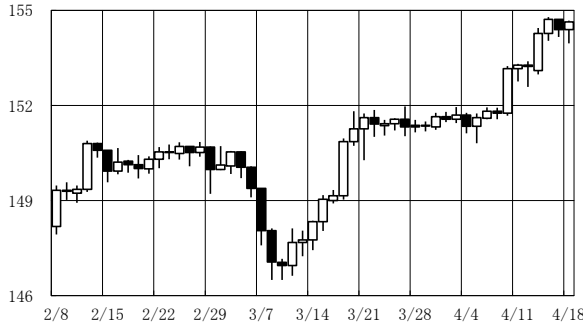
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

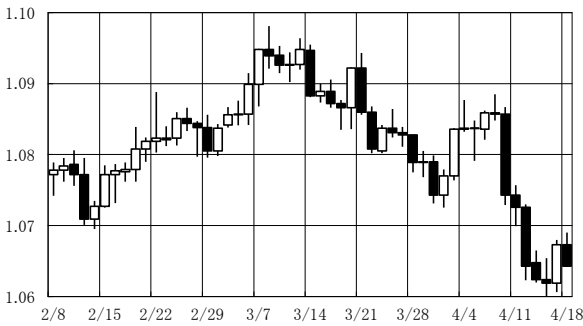
- ・ 今週のドル/円は、米利下げ観測後退に伴うドル買いが継続し、34年ぶりの高値水準を再度切り上げた。週初15日、153.30円でオープンしたドル/円は、米金利上昇を受け154円を目指す展開。海外時間は、米3月小売売上高の強い結果を受けて更に米金利が上昇し、154円台半ばに上値を伸ばした。16日、ドル/円は様子見ムードの中、154円台前半でもみ合い推移。海外時間は、複数のFRB高官によるタカ派発言を受け米金利が続伸し、34年ぶりの高値となる154.79円を付けた。節目の155円を目前にポジション調整の動きが散見され、瞬間的に154円を割り込むもすぐに反発、そのまま高値水準で引けた。17日、ドル/円は政府・日銀による円買い介入警戒感が熾る中、154円台後半で小動き。海外時間は、米金利が低下に転じたことに加え、日米韓財務相会合後の声明で円安およびウォン安に対する深刻な懸念を共有したことが確認されると一層介入警戒感が高まり、154円台前半に下落した。18日、ドル/円は米金利低下や神田財務官による円安けん制発言を受け、一時154円を割り込んだ。海外時間は、FRB高官によるタカ派発言などを消化し、米金利が反転上昇する中で、154円台後半に反発した。本日のドル/円は、引き続き154円台後半で取引されている。
- ・ 今週のユーロ/ドルは米金利の動向に左右されつつ、方向感なく推移した。週初15日、1.0647でオープンしたユーロ/ドルは上昇してスタートも、米3月小売売上高の堅調な結果を背景とした米金利上昇が嫌気され1.06台前半に下落した。16日、ユーロ/ドルは下落地合いが継続し1.06付近まで軟化した後、独4月ZEW景気期待指数の市場予想を上回る結果を受けて、1.06台半ばまで反発。ただ、その後は米金利上昇が重しとなり、一時週安値の1.0601まで値を下げた。17日、ユーロ/ドルは独金利が低下したものの、米金利低下に伴うドル売りが支援材料となり、1.06台後半に上昇した。18日、ユーロ/ドルは米金利続落にサポートされ一時週高値の1.0690まで上伸も、その後は米金利が上昇に転じたことを受け、1.06台半ばに反落した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.06台半ばで取引されている。

		前週末	今 週				
		4/12(Fri)	4/15(Mon)	4/16(Tue)	4/17(Wed)	4/18(Thu)	
ドル/円	東京9:00	153.21	153.30	154.22	154.69	154.34	
	High	153.39	154.45	154.79	154.74	154.68	
	Low	152.60	152.93	153.90	154.17	153.96	
	NY 17:00	153.27	154.28	154.73	154.40	154.65	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0725	1.0647	1.0625	1.0621	1.0669	
	High	1.0735	1.0665	1.0653	1.0680	1.0690	
	Low	1.0623	1.0621	1.0601	1.0606	1.0642	
	NY 17:00	1.0642	1.0625	1.0619	1.0673	1.0644	
ユーロ/円	東京9:00	164.34	163.30	163.75	164.25	164.66	
	High	164.38	164.42	164.65	164.80	164.95	
	Low	162.30	162.75	163.68	163.94	164.39	
	NY 17:00	163.10	164.04	164.21	164.78	164.61	
日経平均株価		39,523.55	39,232.80	38,471.20	37,961.80	38,079.70	
TOPIX		2,759.64	2,753.20	2,697.11	2,663.15	2,677.45	
NYダウ工業株30種平均		37,983.24	37,735.11	37,798.97	37,753.31	37,775.38	
NASDAQ		16,175.09	15,885.02	15,865.25	15,683.37	15,601.50	
日本10年債		0.86%	0.86%	0.86%	0.89%	0.86%	
米国10年債		4.52%	4.61%	4.67%	4.59%	4.64%	
原油価格(WTI)		85.66	85.41	85.36	82.15	82.10	
金(NY)		2,374.10	2,383.00	2,407.80	2,388.40	2,398.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、25日(木)に1～3月期実質GDP成長率(速報)が公表予定となっている。2023年10～12月期の結果(確報)は、+3.4%(前期比年率、以下同様)と依然として高い伸び率を記録し、米景気のソフトランディング期待が高まっている状況だ。内訳を寄与度ベースで確認すると、要の個人消費が+2.2%と7～9月期をも上回る強い結果になった。インフレ鈍化などに伴う実質所得環境の改善や、過去の利上げ局面对比では緩和的な金融環境などが内需の下支えとなっている。また、1～3月期にかけても、小売売上高は底堅い推移を継続しており、個人消費には明確な失速は確認できていない。なお、3月FOMCにおいて更新されたスタッフ経済見通しにおいては、2024年の成長率に関し+2.1%と12月時点から大きく上方修正こそされたが、年内に一定の景気鈍化に向かうとの見立ては不変となっている。なお、ブルームバーグの事前予想では、1～3月期の結果(速報)に関し、前期比年率で+2.3%と見込んでいる
- 本邦では、25日(木)～26日(金)に日銀金融政策決定会合が行われる。前回3月会合では、市場予想通りに、大規模金融緩和の終了を決定、マイナス金利解除とともに、イールドカーブコントロール(YCC)の終了および資産買い入れ方針の変更を行った。声明文では、「大規模な金融緩和はその役割を果たした」「2%目標の持続的な安定的実現を見通せる状況に至った」と政策変更の理由を説明。なお、「躊躇なく緩和」としていたフォワードガイダンスも撤回、「当面緩和的な金融環境が継続すると考えている」との文言を新たに追加した。3月会合から足許にかけて植田日銀総裁は、円安進行が利上げの理由になりうることや、基調的物価が上がっていく中では金融緩和縮小が必要になることを明言している。今回会合での政策変更は予想されないが、展望レポートにおいて強気な物価見通しが示された場合などは、先行きの利上げ観測が高まるだろう。すでに、ブルームバーグが4月上旬に行ったサーベイでは、調査対象のエコノミストの8割が年内における追加利上げを予測している。

	本 邦	海 外
4月19日(金)	・3月消費者物価指数	・独3月生産者物価指数
22日(月)	—————	・ユーロ圏4月消費者信頼感(速報)
23日(火)	・4月製造業/非製造業PMI(速報)	・ユーロ圏4月製造業/非製造業PMI(速報) ・米4月製造業/非製造業PMI(速報) ・米3月新築住宅販売件数
24日(水)	・3月企業向けサービス価格指数	・独4月IFO企業景況感指数 ・米3月耐久財受注(速報)
25日(木)	・2月景気動向指数(確報) ・日銀金融政策決定会合(26日まで)	・独5月GfK消費者信頼感 ・米3月卸売在庫(速報) ・米1～3月期GDP(速報) ・米3月中古住宅販売仮契約
26日(金)	・4月東京消費者物価指数 ・植田日銀総裁会見	・米3月個人所得/支出 ・米3月個人消費支出(PCE)デフレーター ・米4月ミシガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2024年4月～)】

日銀金融政策決定会合(4月25～26日、6月13～14日、7月30～31日)
FOMC(4月30日～5月1日、6月11～12日、7月30～31日)
ECB政策理事会(6月6日、7月18日、9月12日)

金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuho-hobank.co.jp/forex/egcon.html> (Archives) http://www.mizuho-hobank.co.jp/forex/egcon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年3月分)
	週末版(ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～)
2024年4月11日	「でこぼこ道」か「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ペースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直接投資のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の買上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～妥結賃金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分)
	本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～進む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトラディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んでも円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分)
	「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外資性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ→利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分)
	FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の読み方～「最後の砦」となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の名目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分)
	1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか
2023年11月14日	ユーロ/円、15年ぶりの高値をどう理解すべきか
2023年11月13日	24年は「家計の円売り」元年になるか～外貨資産の現状～
2023年11月10日	週末版(23年度上期経常収支の読み方～CFベースの黒字は10分の1に～)
2023年11月9日	「欧州の病人」は戻って来たのか？～企業の「ドイツ離れ」～
2023年11月2日	週末版
2023年10月30日	150円台定着を受けて～その背景と今後の論点整理～
2023年10月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇～)
2023年10月26日	ECBプレビュー～利上げ代替としてのMRR引き上げ～
2023年10月23日	サービス収支に透ける製造業の行動変化
2023年10月20日	週末版